

持ち運びできる電動三輪車

Cyclops GO

取扱説明書



この度は Cyclops GO 電動スクーターをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本製品の安全と確実な操作のため、ご使用前にこのユーザーマニュアル全体をよくお読みになつてください。
このマニュアルの情報は印刷時点のものです。更新の有無については、当社のウェブサイトをご覧ください。
<https://www.fiverover.com/>



警告： ご使用になる前に、この商品があなたの使用目的
WARNING: と適合するかを確認してください。

使用目的：

この電動スクーターは、使用する方が上肢と下肢を自由に使い、直立姿勢で自立できる方の移動手段を提供することを意図しています。

本製品は主に屋内での使用を目的としており、屋外での使用はコンクリート、アスファルト、その他類似の硬く平坦で均一な路面に限られます。

本製品は医療機器ではなく、いかなる病状または障害の補助、治療、診断、または緩和を目的としたものではありません。

当商品、モビリティスクーターは玩具ではありません。電動スクーターであり、安全な操作手順と安全に関する警告を常に遵守しなければ、他者の負傷や死亡だけでなく、本人の重傷や死亡につながる可能性があります。

モビリティスクーターの運転には、良好な視力、筋力、協調性、バランス感覚、集中力など、様々な健康状態と能力が求められます。これらの特性と能力をお持ちであればご使用が可能であるとの認識をお持ちいただきますようお願い致します。

Cyclops GO を安全に操作するには、以下の項目実施が必要です。
実施が出来ない項目が 1 件でもありましたら、ご使用はお控えください。

- この取扱説明書およびこのマニュアルに記載されているすべての安全指示を含む、Cyclops GO のすべての参考資料をよく読んでご理解くださること。
- 自立できること、または限られた介助があれば、立ったり歩いたりできること。
- スロットルとブレーキを操作できるだけの手の力があること。
- この取扱説明書およびその他の安全指示に記載されているように、上り坂、下り坂、およびカーブに合わせてバランスを維持および移動できる運動神経があること。
- カーブを曲がる時には減速をして体重移動をしながら曲がらなければ転倒の危険性があることを理解できていること。
- モビリティスクーターを操縦および制御できること。
- 歩行者や車両を視認できること。
- 速度、距離、傾斜を判断できること。
- 進路上の危険や障害物を認識できすこと。
- 必要に応じて、減速、停止、待機するのに十分な忍耐力があること。
- モビリティスクーターに介助なしで、または転倒の危険なしに乗降できること。
- モビリティスクーターを収納場所に容易に出し入れできること。
- 両手でハンドルバーを握ることができること。

目次

安全仕様と所有者の義務	4
仕様	7
部品構成図	8
フットペダルの取り付け	9
展開 / 折りたたみ手順	11
垂直自立手順	13
シートの取り付け	14
バスケットの取り付け	16
Cyclops GO 電動スクーターの概要	17
Cyclops GO の操作について	19
バッテリーと充電器	24
一般的なトラブルシューティング	29
クリーニング、保管、およびメンテナンス	30
Cyclops GO 品質保証について	31
Cyclops GO 品質保証について	33

安全仕様と所有者の義務

1. 安全に関する注意事項：

以下の手順は、Cyclops GO を安全に操作するための項目です。よくお読みください。

ご注意：Cyclops GO スクーターは一度に1人で使用するよう設計されています。

また、16歳未満の方にはお勧めしません。

- Cyclops GO を操作する前に、このマニュアルとすべての安全およびトレーニングに関する指示、およびすべての警告ラベルをお読みください。
- 同乗者を乗せたり、最大積載重量を超えたりしないでください。
- Cyclops GO が完全に停止し、水平な場所でパーキングブレーキが作動し、電源がオフになっている時以外にはCyclops GO に乗降しないでください。
- Cyclops GO を操作する際は、すべての法律および規制を遵守してください。
- 使用前に、すべての折りたたみレバーとクランプがしっかりとロックされていることを確認してください。
- 方向転換や旋回をする前に、必ず安全に曲がれる速度まで減速してください。
- Cyclops GO を運転する際は、必ず足をフットレストに乗せてください。
- 小さな障害物には、必ずまっすぐ低速で近づいてください。縁石、穴、水たまり、その他の道路上の危険な箇所、段差を乗り越えようとしないでください。Cyclops GO を操作する際は、安全でいつでも停止できる速度でご使用ください。無謀な運転は事故につながる可能性があります。

2. 安全な運転条件：

- 交通量の多い場所では、このスクーターを運転しないでください。
- 傾斜路面には十分注意してください。詳細は以下のセクションをご覧ください。
- 濡れた路面、凍った路面、油で汚れた路面、または未舗装の路面では、このスクーターを運転しないでください。
- スクーターの安全な運転を妨げる可能性のある物や運転手以外の人を乗せないでください。
- 運転中にヘッドフォンや携帯電話を使用して通話やテキストメッセージを送信しないでください。
- 最大積載重量を超えないでください。

3. 妊娠中の運転者：

妊娠中の女性はこのスクーターを運転しないでください。

4. 運転能力が低下している場合：

このスクーターの運転前または運転中に、アルコールなどを摂取しないでください。これらの摂取は、スクーターの安全な運転を妨げる可能性があります。

5. 激しい乗り方は禁止：

このスクーターは曲乗りや悪路走行用に設計されておらず、そのような用途には使用しな

いでください。高速走行、ジャンプ、ウイリー、その他のトリック行為は危険であり、制御不能、事故、そして自分自身または他人の負傷や死亡につながる可能性があります。

6. 坂道、傾斜での使用：

このスクーターを急な傾斜（標準的なバリアフリースロープよりも急な傾斜）で使用しないでください。常にまっすぐに、ゆっくりと傾斜を登り降りしてください。傾斜を登るときは、スクーターが勢いを失わないように、坂の傾斜と運転手の体重に応じて、モーターにより多くの電力を供給し、速度を維持するために、状況に応じてより高いギア（ギア 3）を使用するようにしてください。スクーターが勢いを失って上り坂で停止した場合は、すぐにハンドブレーキをかけ、両足を地面につけてください。Cyclops GO から降りて、製品を押して上り下りしてください。スクーターはホイールベースが短く、重心が高くなっています。速度が速すぎるとバランスが崩れて不安定になる場合があります。特に下り坂の走行時は安全速超過しないようにブレーキを使いながら操作してください。下り坂では、常にブレーキを作動させて速度を制御してください。車輪には電子ブレーキが付いています。作動させるには、スクーターの電源をオンにする必要があります。スクーターには機械式ブレーキも搭載されています。下り坂を進む前に、必ず電源スイッチをオンにして電子ブレーキを作動させ、ブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキが作動していない状態では、絶対に下り坂を走行しないでください。



警告： 坂を下るときに速度を制御しなかったり、急旋回したりすると、重傷または死亡事故につながる可能性があります。

7. 所有者以外の使用：

所有者以外には取扱説明書とすべての警告を読んでいない限り、このスクーターの使用させないでください。一度に 2 人以上でスクーターに乗らないでください。最大積載重量を超えないようにしてください。



警告： この商品は乗り物です。意図せずとも他人に危害を加えてしまう可能性も否定できません。安全運転を遵守できず、その責任を持てない方はご利用にならないようお願いします。

8. 保険：

お客様の保険契約では、このスクーターの使用に関連する事故は補償されない場合があります。補償が適用されるかどうかを確認するには、スクーターを使用する前に保険会社または代理店にお問い合わせください。

9. 運転者年齢：

16 歳未満の方にはこのスクーターを運転させないでください。このスクーターは、16 歳以上の方 1 名による運転および輸送を目的として設計されています。

10. 周囲の状況：

スクーターは、車両、障害物、その他の危険物から離れた、管理された環境で運転してください。階段やプールの近くでは絶対に運転しないでください。芝生、砂利、その他の凹凸のある路面では運転しないでください。

11. 使用目的：

このスクーターは、ジャンプ、後輪ウィリー、前輪ウィリー、またはスクーター上で立ちながらの運転など、スタントトリックを行うために設計または意図されていません。スクーターを運転中は、必ず座席に座り、両手をハンドルに、両足をフットペダルに置き、3 つの車輪すべてを地面に接地させてください。


12. 速度：

スクーターの最高速度は、設定 3 で時速約 6km/h 以下です。設定 3 では、登坂時に最大のトルクとパワーが出ます。安全のため、平坦な路面を走行する場合は設定 1（時速 3km 以下）を使用し、下り坂や旋回時は速度制御に注意してください。

スクーターのホイールベースは短いため、急な下り坂や急旋回では不安定になる場合があります。旋回中は設定 2（時速 5km 以下）または設定 3 を使用しないでください。

13. 視認性：

夜間や視界が悪い状況ではスクーターに乗らないでください。やむを得ずそのような状況で運転する場合はライトを点灯し、反射材付きの服やベストを着用して、ゆっくりと運転してください。


 **警告：** 夜明け、夕暮れ時、または視界が悪いときにライトや反射板を装備せずに自転車に乗ることは大変危険であり、重大な傷害または死亡につながる可能性があります。

14. 気温：

気温が -5℃以下の場合は、スクーターを使用しないでください。バッテリーの消耗が早くなる為移動距離が短くなり、大変危険です。また、降雪時はご利用にならないでください。

15. 気象条件：

濡れた路面や凍結した路面では、スクーターの利用を中止してください。また、荒れた路面や滑りやすい路面ではスクーターを押して歩いてください。

 **警告：** 雨天や凍結した路面では、タイヤの接地力やブレーキの効きが弱まり、運転手や他の車両、歩行者からの視界が悪くなります。雨天や凍結した路面では、事故のリスクが劇的に高まることを認識していただき、悪天候時には使用しないように心がけてください。

16. 使用できる路面状況について：

スクーターは、砂、葉、石、砂利などのゴミのない、固く平らで乾燥した舗装路面での使用を目的としています。濡れた路面、滑りやすい路面、凹凸のある路面、または荒れた路面では、トラクションが低下し、事故につながる可能性があります。泥道、草の上、砂利道、砂場、氷上、水中ではスクーターに乗らないでください。

車輪が引っかかったり、急にハンドルを切ったり、制御不能になったりする可能性のある障害物に注意してください。鋭い段差、排水溝の格子、急な路面の変化は避けてください。危険な路面状況に遭遇した場合は迷わずスクーターを停止し、慎重に押して歩いてください。押して歩くことが危険と判断された場合は、他者の助けを呼び、その路面状況から脱出するようにしてください。

17. 耐水性について：

ある程度の耐水性対策が施されていますが、水たまり、雨、濡れた路面、泥だらけの路面でスクーターに乗ると、重大な損傷を引き起こすリスクがあります。清掃時にスクーターを水に浸したり、スクーターに直接スプレーをかけたりしないでください。雨が降りそうな屋外に駐車する場合は、ハンドルバーのコントロールを防水素材で覆い、電気系統を保護してください。

18. 使用していないとき、折りたたみ時の安全確認：

スクーターを使用していないときは、安全で安定した場所に置き、火気、水、その他の危険物から遠ざけてください。

スクーターが直立自立モードになっているとき、特に移動中の公共交通機関や混雑した場所などでは、安定性に充分注意してください。誤って倒したり落下させたりすると、人身事故やスクーターの損傷につながる可能性があります。また、直立自立モードで移動中は、手元から離れないように常に格納式ドリーハンドルを握って移動してください。

Cyclops GO 仕様

サイズ	展開時寸法約 109 × 56 × 89 cm
	折りたたみ時寸法約 102 × 56 × 36 cm
重量	フレーム本体重量約 14.2 kg
	着脱式バッテリー重量約 1.5 kg
	標準トラベルシート重量約 1.66 kg
	デラックスシート重量約 5.25 kg
パフォーマンス	最大積載重量 135 kg
	最高速度（設定 3）約 6 km/h
	通常速度（設定 2）約 5 km/h
	低速（設定 1）約 3 km/h
	走行可能距離約 20 km（使用環境により変動します）
バッテリー	電圧 36V
	リチウムイオンバッテリー
	容量 6.4Ah
モーター	種類 ブラシレス DC モーター
	定格出力 250W
充電器	入力電圧 100 ~ 240V
	充電時間約 3.5 時間

※ 最高速度および 1 回の充電あたりの走行距離は、乗員の体重、風速、気温、走行スタイル、路面状態、バッテリーの状態などの要因によって変動します。実際の最高速度および走行距離は使用状況により異なります。

部品構成表



※写真は代表写真の為、お買い求めいただいた車種と若干の違いがある場合がございます。



※写真は代表写真の為、お買い求めいただいた車種と若干の違いがある場合がございます。

フットペダルの取り付け

箱からスクーターフレームを取り出します。

手順 1:

フットペダルを取り付ける前に、スクーターを後輪 2 つとリアバンパーで垂直に立てて（垂直自立姿勢）、作業しやすい状態にしてください。

フロントネック下部のフランジ（取付け部）には、左右それぞれに 3 つのボルト穴があります。フットペダルはこのフランジにボルトで固定します。

ご注意:

フットペダルには 2 つの取り付け位置設定 があります。

工場出荷時は「後方（BACKWARD）」位置に設定されています。

走行時に足をもう少し前へ伸ばしたい場合は、フットペダルを支柱に付け直すことで、「前方（FORWARD）」位置へ調整できます。

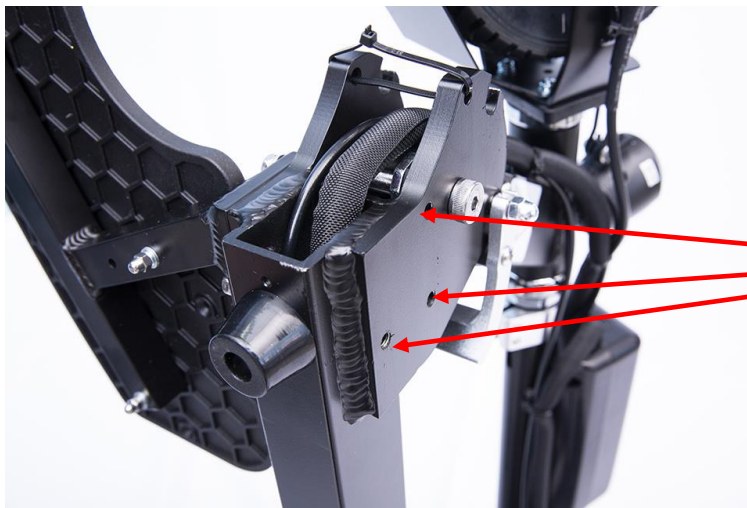


垂直自立モード



後方位置
(BACKWARD)

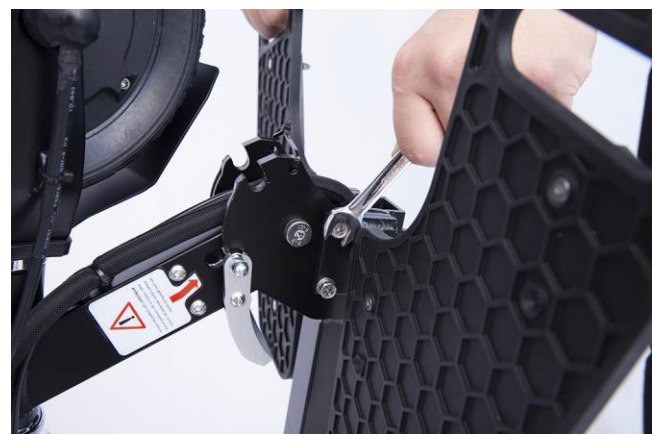
前方位置
(FORWARD)



フットペダル
取り付け用
のボルト穴

手順 2 :

付属のレンチ、ボルト、ワッシャーを使用して、フットペダルをフランジに取り付けます。その際、平ワッシャー（薄いワッシャー）をスクーターフレーム側にあて、平ワッシャーの上にスプリングワッシャー（ロックワッシャー）を置き、最後にボルトの頭で締め付けてください。



折りたたみ・展開方法



スクーターの展開：

折りたたみペダルを踏んで折りたたみロックを解除し、ハンドルバーを持ち上げます。カチッという音がするまでハンドルバーを前方に押します。カチッという音が聞こえたら、折りたたみピンがしっかりと固定されたことになります。

※折りたたみレバーが固い場合、ハンドルを少し上下に動かしながら折りたたみレバーを踏むとスムーズに持ち上がります。



【重要】



ハンドルバー（ダウンチューブ）を前方へしっかり押し込み、折りたたみピンが溝に完全に固定されていることを確認してください。

「カチッ」という音がするまでハンドルバーを立ててください。これは折りたたみピンが溝の底に正しくはまった音です。

折りたたみ方法：

- ①スクーターの電源が OFF になっていることを確認してください。
- ②ハンドルバー（ダウンチューブ）を軽く前方へ押しながら、片足で折りたたみペダルを踏み込みます。ロックが解除されます。
- ③ハンドルバーを下方方向へ倒していき、「カチッ」と音がするまで動かします。その音がしたら、折りたたみ位置で自動的にロックされます。



【重要】

ハンドルバー（ダウンチューブ）を前方へ押すことで、折りたたみ機構が正しく解除され、足で折りたたみペダルを踏むことができます。

ハンドルバー（ダウンチューブ）を前方に押さずに折りたたみペダルを踏むと、折りたたみ機構を破損する可能性がありますので絶対に行わないでください。



Tバーの前方押しについて

ハンドルバー（ダウンチューブ）を前方へ押して、ロック機構にかかっている圧力を解放しながら折りたたみレバーを足で軽く踏みます。

※ 強く踏み込む必要はありません。足をレバーの上にそっと乗せておくだけで、ハンドルバーが自然に折りたたまれていきます。

縦置きスタンド方法



立たせた状態

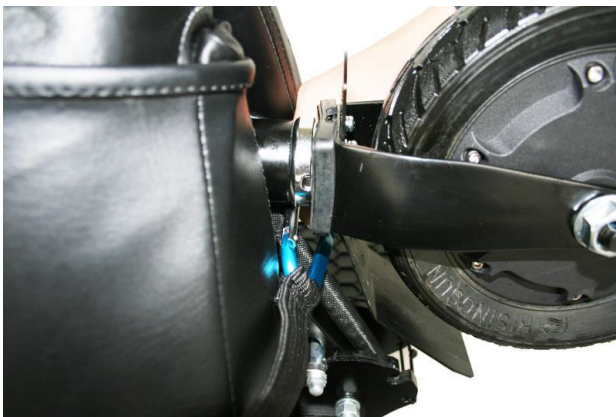


立たせて移動させるイメージ
(フットペダルに握る穴があります)

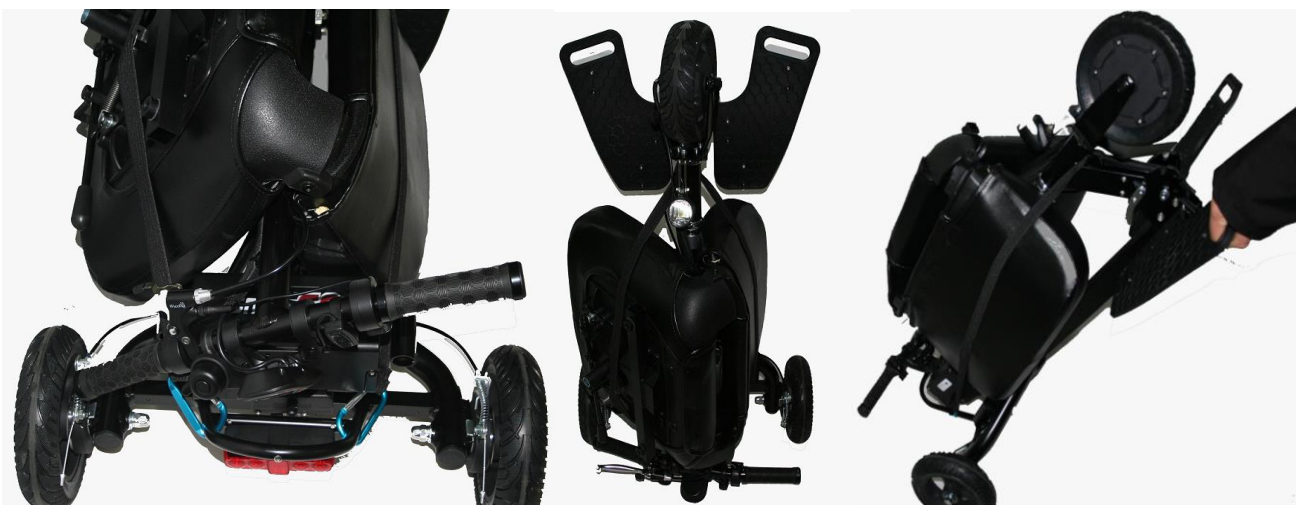
背もたれ付きシートの収納例 (別売オプションのバンジーコードを使用した場合)



バンジーコード
(別売)



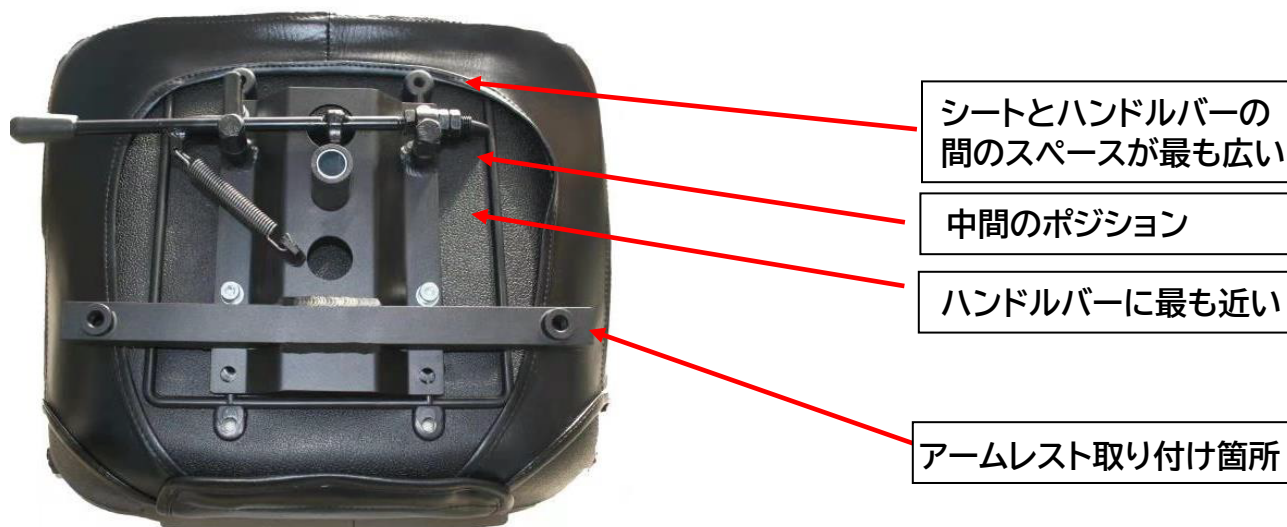
※アームレストは少し立てて収納してください



本体を折りたたんだ後、前輪を持ち上げてスクーターを垂直に立てることができます。垂直に立てた状態で、シートポストをシートポスト固定カラーに収納し、シートをダウンチューブにはさみこみます。別売のバンジーコードを使ってデラックスシートをスクーターに固定してください。ローラーバッグのように本体を移動することも可能です。

シートの取り付け

本製品にはデラックスシート（標準）とトラベルシート（オプション）のいずれかのシートが付属しています。どちらも同じシートポストを使用しています。デラックスシートベースは6mmの六角レンチを使用すれば、シートポジションの3段階のシートからハンドルバーまでの距離を調整が可能です。同梱のボルトとシートベースを使用して、ご自身に最適なポジションに設置できます。



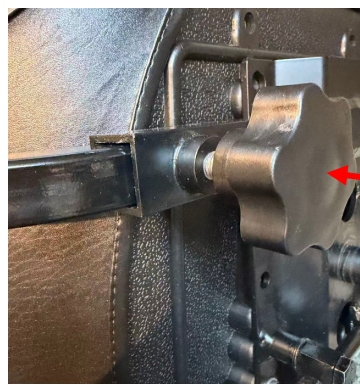
シルバーのシートポストをスクーターのシートポストに挿入し、ピンがくぼみに完全に固定されていることを確認します。次に、デラックスシートをシルバーのシートポストに挿入します。



アームレストの取り付け：
アームレストを座面下のアームレストホルダーに差し込みます。ノブでしっかりと締めて固定してください。

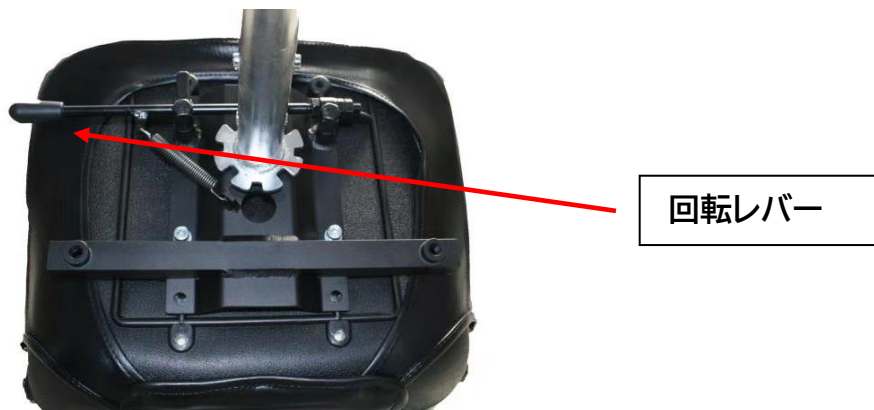


しっかりと奥まで差し込む



ノブでしっかりと固定

回転レバーについて：
デラックスシートには回転機能が付いています。シートに座った状態で回転レバーを前方に引くとロックが解除され、体の力でシートを回転させることができます。



別売トラベルシートを使用する場合：

シートポストをスクーターのフレームに挿入します。次に、トラベルシートをシートポストに挿入します。



別売フロントポーチの取り付け

別売のフロントポーチを取付ける場合は、ポーチのフックをハンドルバーに掛け、ダウンチューブにポーチのマジックバンドを巻きつけて固定します。



フックがブレーキワイヤーに押し付けられていないよう、ご注意ください。

ダウンチューブ周りにマジックバンドを巻きつけて固定してください。



警告:

WARNING

Cyclops GO電動スクーターは、日常の移動をより楽にするために設計された電動スクーターですが、使用にあたっては依然として注意すべきリスクがあります。操作ミスやコントロールを失ったことによるケガ、転倒、衝突などの危険が考えられます。

これらのリスクを可能な限り減らすためには、Cyclops GO の安全な乗り方をしっかり学ぶことがお客様ご自身の責任となります。

本書各種サポート資料には、Cyclops GO を運転する際に想定される危険について記載があります。Cyclops GOに乗車する前に、本書(ユーザーマニュアル)を含むすべてのサポート資料をよく読み、その内容を十分に理解してください。本書には安全に関する重要な注意事項が含まれています。

1: 電源のオン/オフとバッテリーインジケータ

スクーターの電源を入れるには、下図のオン/オフスイッチ(S)を一度押します。

バッテリーインジケータLEDライト(S1)が点灯すれば、電源が入った状態です。

- 3つのライトが点灯: バッテリー残量は 50%以上
- 2つのライトが点灯: バッテリー残量は 50%未満
- 1つのライトのみ点灯: バッテリー残量が少なく、走行可能距離は約1.5 km程度

注意:

バッテリーインジケータは、スロットル(S2)を操作していない時のみ正しい残量を表示します。

スロットルを押している間は、瞬間的な電流変動により電圧が下がるため、実際より低く表示される場合があります。

LEDが消灯している場合は、電源がオフです。また、スクーターは5分間操作がないと自動的に電源がオフになります。

電源を切るときは、オン/オフスイッチを2秒以上長押ししてください。

電源がオンの状態では、右側のアクセルを押していない場合、スクーターは電子ブレーキが働きます。

手で押して移動させたい場合は、必ず電源をオフにしてください。

2. ヘッドライトのオン/オフ

ヘッドライト/テールライトは、スクーターの電源(S)をオンにしますと自動で点灯します。

安全のために電源がオンの時は常時ライトが点灯します。



3. アクセル

右側の親指レバーがアクセル(S2)です。
押し込むほどモーターに送られるパワーが増え、速度が上がります。

注意:

安全機能として、電源がオンでアクセル(S2)を押していないときは、モーターは自動的に「ブレーキ」状態になります。詳しい速度設定については「スピード設定コントロール」の項をご覧ください。

CyclopsGOの運転は、周囲の状況に合わせ安全な速度を心がけてください。

警告：高速での急な旋回や、急な坂での旋回は転倒の恐れがあります。

4. 走行方向（前進／後退）スイッチ

左側にあるスイッチ(T1)が前後進の切り替えです。

スイッチをFにすると前進

スイッチをRにすると後退

後退モードの最高速度は約2~3 mphで、スピード設定による変化はありません。

後退モード時にアクセル(S2)を押すと、スクーターは後ろ向きに動きます。

5. ブレーキ

左側のレバーが機械式ブレーキ(H)です。

スクーターの電源がオンでアクセルが押されていない時は、電子ブレーキが作動します。

後輪に搭載された機械式ブレーキは、緊急時の追加安全装置です。

ブレーキを引くと、モーターへの電力供給が遮断されます。

電子ブレーキは電源オンの時のみ動作します。

パーキングブレーキ(H1)は、ブレーキレバー(H)を握った状態でタブ(H1)を押し込むとロックできます。

解除するには、ブレーキレバー(H)をもう一度握ってください。

(パーキングブレーキの詳細は該当セクションをご参照ください。)

事故防止のため、安全な場所で各速度における制動距離を事前に確認しておくことを推奨します。

6. スピード設定コントロール (T2)

スイッチ(T2)の切り替えで、スクーターの最高速度を設定できます。

設定 速度の目安

1 約 3 km/h

2 約 5 km/h

3 約 6 km/h (最もトルクと速度が高い)

通常走行には設定1を推奨します。

安全のため、周囲に配慮した速度で走行し、曲がる前には必ず減速してください。

7. ホーン (G)

電源オンの状態で、ホーンボタン(G)を押すと警告音を鳴らすことができます。



警告:

WARNING

あなた自身と周囲の人の安全のために、一般の道路や人の多い場所で走行を始める前に、広く安全な場所で次の動作を十分に練習してください。

- ・発進・加速
 - ・旋回(曲がる動作)
 - ・ブレーキのかけ方
 - ・各速度での制動距離(止まるまでの距離)の感覚をつかむこと
- スクーターのコントロールを常に確実に保つことは、すべてお客様ご自身の責任です。

Cyclops GO 電動スクーターの操作方法

自動車の運転や自転車の乗り方と同じように、個人用モビリティの操作には必ずリスクが伴い、習熟には練習が必要です。

そのため、さまざまな状況でスクーターを操作する際は、十分に注意しながら練習してください。

操作に慣れるまでは、速度を低く保つことが重要です。

本書に記載されている手順や練習ステップに従うことで、ドアの通過、エレベーターの乗り降り、スロープの上り下りなどの動作を安全に行えるようになります。

初めて走行するときは、平坦で広く、交通や障害物のない場所を選んでください。

練習時には、近くでサポートしてくれる友人がいると安心です。

最初の走行は、最も低いスピード設定から始めてください。

CyclopsGOの3段階スピード設定については、本マニュアルの「概要」セクションをご参照ください。

使用する前の準備

①バッテリーを満充電にする

工場出荷時は安全上の理由から、バッテリーは約50%の状態 で梱包されています。

(充電方法については、後述の「バッテリー充電手順」をご参照ください。)

②安全な環境で練習する

まず、車両や障害物、その他の危険がない 管理された安全な場所を選んでください。

電動スクーターや自転車の経験がある場合でも、このスクーター特有の操作方法、ハンドリング、旋回特性、斜面の登坂性能、制動距離、走行性能、安全機能に必ず慣れてから、公道環境での使用に移ってください。

③地域の法律・規制の確認

使用前に、必ずお住まいの地域の法律や規制を確認し、それらを遵守してください。

また、この電動スクーター使用中の事故について、保険が適用されるかどうかは契約内容によって異なります。

ご自身の保険会社または代理店に確認し、補償の有無を必ず確かめてください。

既存の保険が自動的に適用されるとは限りません。

④スクーターを展開する(折りたたみ解除)

折りたたみ解除方法については、上記の「折りたたみ手順」を参照してください。

⑤走行前の最終安全点検を行う

a. フォールディング機構、ドーリーハンドル(キャリーハンドル)、ホイールナット、その他のナット・ボルト・固定部がしっかり締まっているか確認する。

b. フレーム、フォーク、ハンドルバーにひび割れや破損、接続不良がないか点検する。

電動走行の練習

①フットペダルとシート(デラックスシートまたはトラベルシート)を取り付けます。

シートに座り、両足をフットペダルにしっかり乗せてください。

②右ハンドルのオン/オフボタンを一度押して電源を入れます。電源が入ると、ハンドルバーのLEDが点灯します。スピード設定が「1」、走行方向スイッチが「F(前進)」になっていることを確認してください。

③両手でハンドルバーを握り、前方を見ながら、右側の親指スロットルを押して前進します。

④ゆっくりとスクーターが前に動き始めたら、ブレーキの練習をします。

右親指スロットルから指を離すか、左手のブレーキレバーを握ると停止します。

⑤後退の練習:走行方向スイッチを「R」に切り替え、アクセルを押すと後ろに進みます。

停止するには、アクセルから指を離すか、左手ブレーキを握ってください。

⑥スピード設定の練習:

設定を「2」に切り替えると速度が上がります。

「1」に戻すと速度が落ちます。

同じように「3」でも速度変化を練習してください。

これらの練習を繰り返すことで、Cyclops GOの操作に慣れ、安全に走行できるようになります。

練習ステップ

1. アクセルとブレーキの使い方を学ぶ

左手でハンドブレーキを握り、ブレーキをかけた状態から始めます。

ブレーキをゆっくり離し、右側の親指スロットル(アクセル)を少しずつ押し込み、スクーターを1~2メートルほど前進させます。その後、アクセルから指を離し、ハンドブレーキを握って完全に停止します。この動作を何度か繰り返し、毎回少しずつ進む距離を伸ばしながら練習してください。

注意:

Cyclops GO は 前輪駆動 のスクーターです。急発進すると前輪が空転し、運転者にとって危険な場合があります。発進時はアクセルを必ずゆっくり押し込むことで、前輪の空転を避けられます。

2. 旋回(ターン)の練習

ゆっくりと広めのカーブでハンドルを切り、Cyclops GO が体重移動にどう反応するか感じてください。身体をカーブ方向に軽く傾けると安定性が向上します。

慣れてくると、より小さなカーブも安全に曲がれるようになりますが、方向転換やカーブの前には必ず減速してください。スピードを出したまま曲がると、Cyclops GO は転倒する恐れがあります。

もし転倒しそうになった場合は、速度を落とす、ハンドルの切れ角を戻す、足を地面につけて支えることで、安全に体勢を立て直してください。

3. 後退(リバース)の練習

後退スイッチを操作する前に、まず 後方に人や段差、車、壁などの障害物がないか目視で確認してください。安全を確認したら後退モード(R)に切り替え、親指スロットルをゆっくり押し進みます。

※後退モード(R)の時は警告音が鳴り続けます。

後退は、障害物を避けるときやエレベーターからバックで出るときなど、必要な場合にのみ使用してください。

後退中は、急旋回や複雑な方向転換は避けてください。

後退が終わったら、必ず前進(F)に戻すのを忘れないようにしましょう。

4. 急な坂道や傾斜の回避

Cyclops GO は、急な坂道や傾斜での走行を想定して設計されていません。

ただし、車椅子用スロープであれば通常問題なく走行できます。

上り坂では、身体を前に傾けて前輪に体重をかけると登坂しやすくなります。

下り坂では速度を十分にコントロールし、下りながらのカーブや方向転換は絶対に避けてください。



警告:

WARNING

常に、自分が安全かつ確実にコントロールできる速度で走行してください。

電子ブレーキの効き方や、速度ごとの停止距離に十分慣れるまで、時間をかけて練習することが大切です。走行中は、必ず両手をハンドルグリップに置いたまま操作してください。

これを守らないと、重大なケガや死亡事故につながる恐れがあります。

Cyclops GO を運転していると、スクーターの能力や特性を理解しておく必要がある状況にたびたび遭遇します。Cyclops GO は平坦で水平な路面では安定した安全性を保ちますが、凸凹のある場所、傾いた路面、斜面では転倒する恐れがあります。

さらに、屋外・屋内問わず、状況によっては特別な注意が必要となる場面もあります。

次のガイドラインは、こうしたさまざまな状況に遭遇した際に安全に対応するための指針となるものです。

カーブ（旋回）

Cyclops GO は二輪車とは異なり、車体を傾けて曲がることはできません。そのため、カーブに入る前には必ず十分に減速してください。

特に、傾斜した路面や凹凸のある路面で方向転換する際は、最大限の注意が必要です。カーブを速い速度で曲がろうとすると、内側の後輪が浮き上がることがあります。

その場合は、すぐに次の操作を行ってください：

- ①速度を落とす
- ②ハンドルの切れ角を減らす（ハンドルを戻す）
- ③上半身を浮き上がっている側の車輪方向へ移動させる
これにより転倒の危険を減らせます。

上り坂・下り坂（インクライン／ディクライン）

斜面では、事故を防ぐために特別な注意が必要です。

Cyclops GO は、急な坂や長い上り坂を走行するようには設計されていません。運転手の体重などの要因により、上り坂の登坂力は変わります。急な上り坂は避けていただくようお願いします。



警告：

WARNING

急すぎる、または距離が長すぎる傾斜では、非常に危険な状況を招く可能性があります。スクーターは十分な推進力を失い、後ろ向きに滑り落ちたり、後方に転倒したりする恐れがあります。車椅子用スロープ以外の斜面・坂・スロープでは走行しないことを強く推奨します。

傾斜（上り・下り）で Cyclops GO を運転する際のポイント

- 濡れている・凍っている・滑りやすい・砂利が多いなど、危険のある傾斜では絶対に走行しないでください。
- 傾斜を上る際は、坂の下（ふもと）から真っ直ぐ登り始め、斜め方向から進入しないようにします。
- 上半身をハンドル側に寄せ、体重を前輪にかけると安定します。
- トルクを最大にするために、スピード設定を「3」に切り替えます。
そのうえでアクセルをゆっくり押し、スクーターを前進させます。頂上に着いたら、設定「1」に戻してください。
- 坂道で停止しないようにしましょう。ジグザグ走行は行わず、常に直線で上るようにしてください。
- もし坂の途中で推進力を失った場合は、すぐにハンドブレーキを握り、両足を地面につけてスクーターを安定させます。その後、一度スクーターを降りて、手押しで坂の上または下へ移動させてください。
- 下り坂やスロープでは非常にゆっくり走行し、斜めに降りたりしないでください。
下りながらの旋回も避けてください。
速度が出すぎた場合は、左手でブレーキレバーに手を添え、軽くブレーキをかけながら調整します。

段差（カーブ・縁石）

Cyclops GO で縁石や段差を乗り越えようとしてはいけません。必ずブレーキをかけ、電源を切ってからスクーターを降りてください。

その後、スクーターを持ち上げるか押して迂回し、安全な場所に移動してから再び乗車してください。



警告：

WARNING

縁石（カーブ）を乗り越えようとする、スクーターが後方に転倒し、ケガにつながる恐れがあります。また、本体の破損の原因にもなります。

また、縁石に近い歩道を走行する際にも十分注意してください。

片側の車輪が縁石から落ちると、スクーターが横転し、重大なケガや死亡事故につながる可能性があります。

スピードバンプ（段差）と不整地

Cyclops GO は、わずかな凹凸であれば走行可能ですが、その際は、必ず減速し、正面からまっすぐ乗り越えるようにしてください。

ただし、Cyclops GO の小径ホイールは、高さ 2 インチ（約 5cm）を超える障害物を乗り越えることができません。

無理に乗り越えようとする、転倒してケガをする恐れがありますので、絶対に行わないでください。



警告：

WARNING

スピードバンプや不整地を無理に乗り越えようとする、スクーターが後方に転倒し、重大なケガや死亡事故につながる恐れがあります。

くぼみ（穴）や水たまり

路面の穴（ポットホール）や深い水たまりは、必ず避けてください。



警告：

WARNING

路面の穴（ポットホール）や大きな凹凸を乗り越えようとする、スクーターが後方に転倒し、重大なケガや死亡事故につながる恐れがあります。

室内での使用（INDOOR USE）

Cyclops GO は、建物内、空港、ショッピングモール、店舗、劇場などで使用する場合、使用先にお問い合わせの上、使用の許可を得た場合のみご使用ください。

ただし、ドアの通過には注意が必要です。

ドアに近づく際は必ず ゆっくり進み、後輪が問題なく通過できる幅があるか確認してください。

屋外での使用 (OUTDOOR USE)

Cyclops GO は、平坦で硬く滑らかな路面のみを走行するよう設計されています。オフロード (未舗装路) 走行はできません。

また、以下の環境では使用しないでください:

- ①雨天・降雪時
- ②水たまりや濡れた路面を走行すること
- ③悪天候時

わずかな凹凸は低速で正面から進入すれば走行できますが、状況によってはスクーターを持ち上げる、または押して迂回する必要があります。

Cyclops GO の小径ホイールは、高さ 2 インチ (約 5cm) を超える障害物を乗り越えることができません。無理に乗り越えようとすると、転倒してケガをする恐れがあります。

また、Cyclops GO で物を牽引したり、引っ張ったりしてはいけません。

パーキングブレーキの操作方法

Cyclops GO には 2 段階式のパーキングブレーキが搭載されています。1 段階よりも 2 段階目のほうがより強くロックされます。



パーキングブレーキ: 未作動状態
(パーキングブレーキがかかっていない状態)



ブレーキレバーを握りながら、ストッパーを押し込むとパーキングブレーキが作動します。



ブレーキレバーをさらに深く握り、ストッパーを押し込むと、パーキングブレーキはギア 2 (2 段階目) の状態になります。ギア 2 は、ギア 1 よりも強い制動力となります。

バッテリーと充電器 (BATTERY AND CHARGER)

この電動スクーターには、リチウムバッテリーと、それに専用設計されたスマート充電器が搭載されています。

必ず、メーカーが付属した純正充電器のみを使用して充電してください。

他の充電器や充電システムを使用すると、バッテリーまたは充電器の破損、メーカー保証の無効化につながります。

■ 使用時の注意

- 充電器をじゅうたんなど可燃性の素材の近くで使用しないでください。
- 必ず乾燥した場所で充電してください。
- 充電器やケーブルを水に触れさせないでください。感電の恐れがあります。
- 濡れた手で充電器やケーブルに触れないでください。
- 充電中に異常を感じた場合は、すぐにコンセントから充電器のプラグを抜いてください(ケーブルを引っ張らないこと)。
- 充電器やケーブルを、鋭利な物や熱で傷つけたり、押しつぶしたりしないでください。

■ 損傷確認とメンテナンス

付属の充電器は、コード、プラグ、外装、その他の部品に損傷がないか定期的に点検してください。損傷が見つかった場合は、修理または交換が完了するまで絶対に充電しないでください。

使用していないときは、コンセントからプラグを抜き、スクーターからも充電器を外すようにしてください。

■ 安全機構について

バッテリーが満充電になった場合、またはスクーター側の接続が外れた場合、充電器は自動的に充電を停止します。

再び充電を行うには、一度充電器のプラグをコンセントから抜いてリセットする必要があります。

バッテリー充電に関する注意事項

- ①初回使用時、または長期間使用していない場合は、バッテリーを満充電にしてください。
(充電手順については後述「充電方法」を参照)
安全上の理由から、工場出荷時のバッテリーは約50%の状態です。
充電器のLEDが緑色に点灯すると満充電です。
- ②常に清潔で乾燥した場所で充電を行い、異物やゴミなどのない環境で充電してください。
- ③こまめに充電してください。バッテリーは好きなタイミングで再充電可能です。完全に使い切ってから充電する必要はありません。むしろ、部分的な放電と充電を頻繁に行う方が寿命が長くなります。

コツ:

- ・10~15回の「部分的な放電／充電」を行ったら、1度だけ「フル放電／フル充電」サイクルを行うと効果的です。
- ④長期間保管する前には、必ず満充電にしてください。
 - ⑤使用していない期間が続く場合は、3か月に1度のペースで再充電を行ってください。
 - ⑥水濡れ・衝撃・不適切な保管などの異常な要因によるバッテリー損傷は、メーカーの限定保証の対象外となります。
 - ⑦Cyclops GO は充電ポートが2箇所あります。
 - ・1つ目の充電ポート:前方のコントローラーボックス下
 - ・2つ目の充電ポート:バッテリー本体側

通常、充電ポート2は充電ポート1に接続されています。そのため、バッテリーを本体に取り付けたまま(ポート1)でも、取り外して単体で(ポート2)でも充電できます。
バッテリー側面にはバッテリー残量インジケータLEDも付いており、ボタンを押すと点灯します。
LED 3つ点灯=満充電を示します。



⑧バッテリーの取り外し方法

バッテリーには、スクーター本体フレームへのロック／解除用の鍵が2本 付属しています。スペアキーは、なくさないよう安全な場所に保管してください。

※ **鍵の再発行(追加作成)はできません。**

付属の鍵を使用して、バッテリーのロックを解除します。

バッテリーをドッキングステーション(バッテリー台座)からスライドして取り外します。

注意:

製品を保護するため、バッテリーを取り外した状態で、露出したバッテリー台座を雨にさらさないでください。ショートしてバッテリーを損傷する恐れがあります。



充電器 (CHARGER)

① 充電器のLEDが赤色のときは充電中です。

バッテリーが100%まで充電されると、LEDは 赤 → 緑 に変わります。

② 付属の充電器には 過充電防止機能が内蔵されており、バッテリーが過充電になるのを防ぎます。

③ 完全に放電した状態からの 充電時間は約3.5時間 です。

④ 充電器のコード、プラグ、外装、その他の部品に損傷がないか定期的に点検してください。

損傷が見つかった場合は、修理または交換が完了するまで 絶対に使用しないでください。

⑤ 使用しないときは、充電器を 必ずコンセントから抜いてください。

また、安全機構として、バッテリーが満充電に達した場合、またはスクーターから充電器が外れた場合 充電器は自動的に充電を停止します。再度充電を開始するには、一度コンセントから充電器のプラグを抜いてリセット する必要があります。

⑥ 必ず付属の純正充電器のみを使用してください。

コンセント
への接続



充電器のインジケータ表示

青 = 電源には接続されているが、充電は行われていない状態

緑 = バッテリーが満充電

赤 = 充電中



警告：
WARNING

**互換性の確認、不適切な取り付け・操作・メンテナンスによっては、
重大なケガや死亡事故につながる恐れがあります。**

充電方法

- ①スクーターの電源をオフにします。
充電ポートのゴムカバーを開き、充電器プラグをしっかりと差し込みます。
- ②充電器をコンセントに接続します。
- ③充電器のランプ表示：
 - ・赤色点灯：充電中
 - ・緑色点灯：満充電
- ④充電が完了したら、まずコンセントから充電器プラグを抜き、次にスクーター側の充電プラグを外します。
最後に、充電ポートのゴムカバーを元の状態に閉じてください。

使用上の注意

- ①バッテリーを完全に使い切り、モーターが停止するまで走行してもバッテリーにダメージはありません。
- ②バッテリーが熱い状態では運転しないでください。

バッテリー残量インジケーター

- ①バッテリー残量インジケーターは電源スイッチ付近にあります。
スクーターの電源をオンにすると、インジケーターも点灯します。
- ②ライト3つ点灯：バッテリー残量は50%以上
ライトが少ないほど、バッテリー残量が少なくなっています。
- ③インジケーターが正確になるのはモーターが動作していない状態(停止時)です。
走行中は電流変動で正しい値が出ないため、停止した状態で確認してください。
- ④ソフト走行状態について
バッテリーがほぼ空になると、低速では走れるが、最高速にすると電源が落ちるという症状が起きることがあります。これは、最高速では瞬間的に大きな電流が流れ、バッテリー電圧がコントローラーの停止基準値以下に下がるため、バッテリー保護機能が働いてスクーターが自動停止するためです。
この状態になったら、スクーターの電源を入れ直し、低速でゆっくり走行してバッテリーを早めに充電してください。



警告：

WARNING

あらゆる機械製品と同様に、電動スクーターおよびその各部品は摩耗や負荷による劣化が避けられません。使用されている素材や構造によって、摩耗や疲労が進む速度・寿命(ライフサイクル)は異なります。部品の寿命を超えて使用すると、突然の重大な破損(破断・故障)が発生し、重傷や死亡事故につながる危険性があります。

以下のような症状は、部品が疲労し寿命末期に達しているサインです。

- 1, 傷
- 2, ひび割れ
- 3, ほつれ
- 4, 変色

これらの症状が見られる部品は、使用を停止し、交換が必要です。また、電動スクーター本体や部品がメーカー保証期間内であっても、保証が「製品がその期間必ず正常に使用できること」を保証するものではありません。製品寿命は、使用環境、走行スタイル、日常的な取り扱い方法などに大きく左右されます。

バッテリー (BATTERY)

通常使用の場合、付属のリチウムバッテリーは最初の500回の充電サイクルで容量の30%以上が低下することはありません。適切に管理されたリチウムイオンバッテリーの平均寿命は約1,000回の充放電サイクルです。満充電にもかかわらず走行距離が極端に短くなった場合、リチウムイオンバッテリーの交換時期のサインです。

長期間保管する場合は、バッテリーを満充電にしてから保管し、保管中も3か月に1度は再充電してください。

バッテリーを3か月以上放電したまま放置すると永久的なダメージが発生する可能性があり、保証の対象外となります。

バッテリーの廃棄 (BATTERY DISPOSAL)

当製品はリチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄する場合はお住いの地域役所に廃棄方法を確認し、その指示に従ってください。

火中に投棄しないでください。爆発の危険があります。

家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。

機械部分 (MECHANICAL)

振動により、ナットやボルトが緩むことがあります。必ずすべてのホイールナット、ナット類、ボルト類が確実に締まっているか確認し、必要であれば増し締めしてください。

点検方法 (簡易チェック) :

スクーターを2~5cmほど持ち上げ、軽く落としてはねさせる。

本体全体を目視と手触りで点検。すべてのナット、ボルト、溶接部に音、手触り、見た目で異常 (緩み・ひび・変形) がないか確認します。

異常、緩み、疲労のサインがある場合は、交換または確実な固定が必要です。

保管と日常ケア (STORAGE AND DAILY CARE)

スクーターを以下の環境に保管しないでください:

直射日光下

湿気の多い場所

-5°C (23°F) 未満または 43°C (110°F) 超の場所

使用しない期間が続く場合は、3か月ごとにバッテリーを満充電してください。

スクーターは常に清潔に保ってください。

(クリーニングとメンテナンスの項目を参照)

一般的なトラブルシューティング

問題が発生した場合は、まず以下のトラブルガイドをご確認ください。

■ 問題: スクーターが動作しない

考えられる原因/対処:

- ① スクーターの電源が入っていない
→ オン/オフボタンを押して電源を入れてください。
- ② バッテリーが充電されていない
→ バッテリーを充電してください。
- ③ ハンドブレーキが誤って作動している
→ ハンドブレーキがかかっているか確認してください。
- ④ バッテリーがロックされていない(固定されていない)
→ 付属の鍵を使用して、バッテリーをフレームにしっかりロックしてください。
- ⑤ バッテリー側のオン/オフスイッチがオフになっている
→ バッテリースイッチの「直線マーク側」を押し下げてオンにしてください。

■ 問題: スクーターの動作が断続的(時々止まる)

考えられる原因/対処:

- ① バッテリー残量が少なく、「ソフト走行状態」になっている
→ バッテリーを充電してください。
※「ソフト走行状態」は前ページ参照
- ② バッテリーがベースにしっかり固定されていない
→ 付属の鍵でバッテリーを確実にロックしてください。

■ 問題: 走行時間が短い/速度が出ない

考えられる原因/対処:

- ① 利用者の体重が上限を超えている
→ 最大重量 136 kg (300 lbs) を超えないようにしてください。
- ② 走行環境が悪い
→ 平坦で乾燥した路面のみで使用してください。傾斜した場所やゴミ・砂利の多い路面は避けてください。
- ③ バッテリーが満充電になっていない
→ バッテリーを満充電にしてください。
- ④ バッテリーの経年劣化/損傷
→ バッテリーを交換してください。
新しいバッテリーをご購入ください。

■ 問題: モーター起動時にカチカチ音がする

考えられる原因/対処:

- ① 正常な動作です。
カチカチ音は、現在のスピード設定においてモーターがパワーの限界に近づいているサインです。スピード設定が「1」(最低パワー)の場合、停止状態から走り出す際にモーター負荷が高いため音が出ます。スクーターが動き始める、または速度設定を上げると音は消えます。

■ 問題: 充電器LEDが、接続後も青のまま(充電が始まらない)

考えられる原因/対処:

- ① 充電器のリセットが必要/一時的なショート状態
→ 充電器をコンセントから抜き、40分待ってから再度接続してください。
- ② バッテリーフェーズが切れている
→ 充電器をバッテリーから外し、バッテリーをスクーター本体から取り外してください。

クリーニング、保管、およびメンテナンス

1. スクーターを乾燥状態に保つ

可能な限り濡れた環境での走行を避けてください。

やむを得ず濡れてしまった場合は、すぐに水分を拭き取り、完全に乾かしてください。

2. スクーターを清潔に保つ

ほこりや汚れは、固く絞った湿った布で拭き取ってください。

拭いた後は必ずすぐに乾燥させてください。

溶剤・洗剤は使用しないでください。

水を直接吹きかけたり、スクーターを水に浸したりしないでください。

3. 保管方法

バッテリー性能は温度の影響を受けやすいため、以下に注意してください：

- ・直射日光の当たる場所や車内など高温環境に保管しない。
- ・室内の風雨にさらされない場所が理想です(室温での保管がベスト)。
- ・湿気の多い環境での保管は避けてください。

バッテリー管理：

- ・バッテリーを完全に使い切った後、長期間保管する前には必ず満充電にしてください。
- ・長期保管中でも、3か月に1度は満充電にする必要があります。
- ・バッテリー残量を定期的に確認し、放電したまま放置しないようにしてください。

4. メンテナンス・修理

修理やメンテナンスが必要な場合は、販売店もしくは、当社へご連絡ください。

保証について

(株)ファイブローバーは、最初の購入者に対し、本製品について購入日から12か月間、または走行距離1600kmのいずれか早い方まで、材料および製造上の欠陥がないことを保証します。
この限定保証には、通常の摩耗、または不適切な整備・保管・使用によって生じた電動スクーターの損傷・故障・不具合は含まれません。

また、以下の場合は保証が無効となります：

- ・レクリエーションまたは移動目的以外で使用了場合
- ・製品を改造した場合
- ・製品をレンタル用途で使用了場合

■ 保証対応

材料または製造上の欠陥が認められた場合、法律で許される範囲で次のいずれかを選択して対応します：

- ・新しい部品または再生部品を使用して無償修理を行う
- ・新品または同等性能の再生品と交換する
- ・購入代金を返金する

修理または交換された製品には、次のいずれか長い方の期間の保証が適用されます：

- ・元の保証期間の残り
- ・修理部品・交換品を発送した日から90日間

上記いずれかの対応(修理・交換・返金)が、お客様に対する唯一の措置となります。

■ 保証対象外となる場合

以下の原因による損傷・不具合は、材料および製造上の欠陥とはみなされず、保証対象外です：

- ・誤った使用方法、乱暴な扱い、誤用
- ・事故・衝突・転倒
- ・無断修理や部品交換
- ・改造・加工
- ・取扱説明書(ユーザーマニュアル)やバッテリー取扱説明に従わなかった場合
- ・使用者の都合による返品要求
- ・その他、販売者、メーカーの責任によらない原因による損傷

※この限定保証には、通常の使用による摩耗で交換が必要となる部品(タイヤ、シート生地、ヒューズなど)は含まれません。

※お客様が加入されている保険契約では、本スクーター使用中の事故が補償対象外となる場合があります。
補償の有無を確認するために、必ずご加入の保険会社または保険代理店へお問い合わせください。